

## Maximilian Büsser

(MB&F Founder)

### 「本当に尊敬できるフレンズたちと新しい時計を創造したかった」

「MB&Fはブランドではありません。尊敬できるフレンズとともに新しい時計を創造するためのクリエイティブ・ラボラトリーなのです。私はその推進役にすぎません」

マキシミリアン・ブッサー氏の、その抑制の効いた理知的な口調が、むしろ強い情熱を表現しているようだ。フレンズとは、もちろん外部の時計師やクリエイターたちのこと。MB&Fの“F”の意味だ。このMB&Fの創設そのものが、まさに彼の人格と、運命めいたものを表現している。

「大学卒業後に入社したマイクロテクノロジー・エンジニアリングという会社が、まもなく倒産し、しばらく無職だったときのことでした。あるスキー場で偶然にジャガー・ルクルトの前CEOだったアンリ・ベルモンとコーヒーを飲む機会があり、その1週間後に面接、さらにその3時間後に採用という好機を得たのです。1991年から7年間、プロダクトマネージャーとしてジャガー・ルクルトの復興という非常に興味

ある仕事を経験し、それが私のすべてのベースになっていると思いますね」

1998年、新しい時計ビジネスを模索していたハリー・ウィンストンが、ヘッドハンティングするための40人の候補を選び、面接したという。そして採用されたのが彼だった。31歳とときだったという。

「ご存じのように、ハリー・ウィンストンでは、有能なクリエイターたちとのコラボレーションによるオーパス・シリーズのディレクターを担っていました。おそらくそれは大成功だったと思いますね。スタッフも当初の8人から80人に増え、売り上げも大きく拡大し、なによりも多大な名声を獲得しました。が、仕事に非常に厳しく、私から何か失われていくことを感じていました。それが時計作りへの情熱だと知ったとき、私は辞めるべきだと思ったのです。正直、私は自分自身を尊敬でき、自分を幸せにできる仕事がしたいと思いました。権威などない小さな会社を作り、自分が本当に

尊敬できるフレンズとともに仕事をしようと思いました。それがMB&Fでした」

2005年にハリー・ウィンストンを辞した彼が、翌年設立した会社がMB&Fだった。そして2006年、初の作品「オロロジカル・マシンNo.1」を発表。今回、アラン・シルベスタインに新しいケースデザインを託したのは、2007年に発表した“No.2”だった。

「20年前のことでした。ドイツのアウトバーンを走っているとき、隣に並んだBMW・Z1のドライバーの腕に嵌められた、カラフルなインデックスを配したオールブラックの腕時計をはっきり見たのです。私にとって強烈なインパクトでした。それがアラン・シルベスタインのコレクションだと知ったのは、随分後のことで、以来、アランは私が大変リスペクトする時計デザイナーのひとりになったのです。今回は念願のコラボレーションでした。彼には一言、楽しんで! とだけ言いました。期待通り、素晴らしいデザインが完成したと思っています」



#### MB&F 創設者 マキシミリアン・ブッサー氏

1967年、スイス生まれ。ローザンヌのスイス連邦工科大学を創業後、ジャガー・ルクルトのプロダクトマネージャー、ハリー・ウィンストン レアタイムピース社のマネージングディレクターを歴任。2005年にMB&Fを創設。2006年に外部のクリエイターら（フレンズ）とのコラボレーションによりオロロジカル・マシンNo.1を発表。以後、2007年にNo.2、2008年にNo.3を発表している。



## MB&F

### オロロジカル・マシン No.2.2

2007年に発表したオロロジカル・マシンNo.2をベースに、アラン・シルベスタイン氏が新たにケースをデザインしたスペシャル・エディション。左の文字盤にはレトログラード式日付表示およびムーンフェイズ。右の文字盤にはジャンピングアワーおよび同心のレトログラード式分針による時刻表示。自動巻き。ケースはブラックPVD仕上げの上にシリコン・オキシサイトコーティングを施したチタンを採用。ケースサイズは59mm×38mm。レザーストラップにチタン製カスタム仕様のバックルを装着。8本の限定エディション。価格未定。問い合わせ/アワーグラス 銀座店☎03-5537-7888



ケースバックはサファイアクリスタル仕様となっており、22金ブルーローズゴールド“バトル・アックス”自動巻きローターの動きが確認できる。



オロロジカル・マシンNo.2に搭載されているムーブメントは、ブッサー氏の“フレンズ”のひとりであるアジェノー社のジャン=マルク・ヴィタレヒト氏が設計。両翼に4つのブリッジが伸びた非常にイレギュラーなスタイルとなっている。



オロロジカル・マシンNo.2.2のオリジナルである“No.2”（機能はNo.2.2と同様）。レッドゴールド&チタンケース。ゴールドをあしらったワニ革製ストラップ。カスタムデザインのチタン製デベロップメントバックル。限定125本。698万2500円。

今回、マキシミリアン・ブッサー氏は「オロロジカル・マシンNo.2.2」のケースデザインを担当したアラン・シルベスタイン氏（写真右）とともに来日。「初めてオロロジカル・マシンNo.2を見たとき、1940年代のミニチュア・ボックスカメラが頭に浮かんだ。ポートホールはレンズを思い起こさせた。僕はミニチュア・ボックスカメラの使いやすさとバウハウスの理念を組み合わせることで、No.2に新しいデザインコンセプトを与えようと考えたんだ」と、アラン氏は語った。